	オ　設備の保全に関する知識を養うための教育・訓練を行うこと。	◎	◎	◎	◎＊	◎＊
	カ　防災に関する教育・訓練を行うこと。	◎	◎	◎	◎	◎
	キ　防犯に関する教育・訓練を行うこと。	◎	◎	◎	◎	◎
	ク　情報セキュリティに関する教育・訓練を行うこと。	◎	◎	◎	◎	◎
	ケ　電気通信設備の工事、維持・運用に関する事項の監督に関する講習を実施すること。	◎	◎	○	○	○
⑶　設計	ア　将来の規模の拡大、トラヒック増加（端末の挙動によるものを含む。）及び機能の拡充を考慮した設計とすること。	◎	◎	◎	◎	◎
	イ　トラヒックの瞬間的かつ急激な増加及び制御信号の増加の対策を講じた設計とすること。	◎	◎	―	―	―
	ウ　重要な機器を導入する場合は、導入判定の統一基準を策定し、その基準に基づき品質の検証を行うこと。	◎	◎	◎	◎	◎
	エ　重要な機器を調達する場合は、サプライチェーンにおける情報セキュリティを考慮した機器を調達すること。	◎	◎	◎	◎	◎
	オ　サーバ等機器導入前の機能確認を十分に実施すること。	◎	◎	◎	◎	◎
	カ　機器等の製造・販売等を行う者から提供されるシステムについての検査手法及び品質評価手法を事前に確認すること。	◎	◎	◎	◎	◎
	キ　設備の設定値の誤設定・誤入力防止のため、委託業者と連携し、設定変更の確認事項等を明らかにすること。	◎	◎	◎	◎＊	○
	ク　設備の設定値の誤設定・誤入力防止のため、設定変更後には、実機に導入する前に確認試験を行うこと。	◎	◎	◎	◎＊	○
	ケ　設備の不具合を事前に発見するために次の試験を実施すること。 ①デグレード試験 ②過負荷試験 ③商用環境に近い環境での試験 ④品質の定量化試験	◎＊	◎＊	◎＊	○	○
	コ　トラヒックの瞬間的かつ急激な増加への対策として、各装置の最大処理能力を超える負荷試験を実施すること。この場合において、商用環境でのトラヒックパターンを参考に、複数のトラヒック条件での試験を実施すること。	○	○	―	―	―
	サ　相互接続性の試験・検証方式を明確にすること。	◎	◎	◎	―	―
	シ　検収試験及び保守試験においては、実データを使用しないこと。ただし、やむを得ない場合であつて、通信の秘密の保護及びデータの保護に十分に配慮する場合は、この限りでない。	◎	◎	◎	◎	◎
	ス　重要な電気通信設備においては、冗長構成をとるようにすること。	◎	◎	◎	◎＊	◎＊
	セ　冗長構成をとる電気通信設備においては、予備系への切替動作が確実に行われることを確認すること。	◎	◎	◎	◎＊	◎＊
	ソ　冗長構成をとる電気通信設備の予備系への切替えができなくなつた場合の復旧手順をあらかじめ準備すること。	◎	◎	◎	◎＊	◎＊
	タ　設備及び設備を設置する建築物等の基準及び指標を策定すること。	◎	◎	◎	○	―
⑷　工事	ア　委託事業者等を含めた関連部門間で工事手順書を作成するとともに、その内容の検証を行うこと。	◎	◎	◎	○	―